

人の死（法医学）

オーガナイザー

法医学講座 教授 近藤 稔 和

M-03-03-L

教 員 名

法医学講座

教授 近藤 稔 和

准教授 石田 裕 子

講師 石上 安希子

講師 野坂 みずほ

非常勤講師 池松 和 哉

非常勤講師 木下 博 之

非常勤講師 宮石 智

非常勤講師 林 敬 人

I 授業の目的

集団の中で発生した異状死亡の原因を解析理解することができるようになるために、社会における医と法の多数の接点を理解し、すべての医療行為の責務を充分果たし得る態度を習得する。

II 到達目標

1. 死の概念について説明することができる。
2. 死体現象を列挙し、それから死後経過時間を推測することができる。
3. 損傷の性状を識別し、損傷を診断・分類することができる。
4. 損傷と死因との因果関係を説明することができる。
5. 突然死に陥る疾患を列記することができる。
6. 窒息を分類し、それらの特徴点を指摘することができる。
7. 性的犯罪の法律的な意義について説明できる。
8. 胎児からヒトへの法律的移行時期について述べることができる。
9. 嬰兒、乳幼児の異状死の社会的問題について述べることができる。
10. 焼死の概念について説明することができる。
11. 各種薬毒物の中毒発現機構について説明できる。
12. アルコールの代謝について説明することができる。
13. 個人識別の手段について説明できる。
14. 赤血球抗原型各血液型の法医学および臨床医学における意義について説明できる。
15. 赤血球抗原型各血液型の抗原構造および生合成について述べることができる。
16. 赤血球凝集法による血液型検査および交差適合試験について説明できる。
17. HLAの多型について検査法を含めて説明できる。
18. DNA多型の法医学的意義について説明できる。

III 教育内容

1. 講義項目と担当者

V期

1. 死と死後経過時間
2. 損傷と死因
3. 窒息
4. 中毒
5. 交通事故損傷

講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	R5.2.21	(火)	1～3	総論・死体現象1	法医学	近藤
2	R5.2.28	(火)	1～3	生活反応・損傷論	法医学	近藤
3	R5.3.7	(火)	1～3	窒息	法医学	近藤
4	R5.4.4	(火)	1～3	頭部外傷・交通事故	法医学	近藤
5	R5.4.11	(火)	1～3	溺死・死因論・死後画像	法医学	近藤
6	R5.4.25	(火)	1～3	中毒・アルコール	法医学	近藤
7	R5.5.9	(火)	1～3	嬰兒殺・児童虐待	法医学	近藤
8	R5.5.16	(火)	1～3	異常環境・性の法医学	法医学	近藤
9	R5.5.23	(火)	1～3	内因性急死・医療関連死	法医学	近藤
10	R5.5.30	(火)	1～3	個人識別・血液型	法医学	近藤
11	R5.6.6	(火)	1～3	予備日(質問コーナー)	法医学	近藤
12	R5.6.13	(火)	1～3	試験	法医学	近藤